（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3390200628		
法人名	社会福祉法人　薫風会		
事業所名	グループホーム　ひだまり(1階)		
所在地	岡山県倉敷市連島1丁目1-13		
自己評価作成日	平成　24年　6月　5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200628-00&PrefCd=33&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成　24年　7月　12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様には積極的に家事（掃除、洗濯干し等）が行える様支援しています。また土いじりを通し、認知症の進行緩和のお手伝いをするとともに、育てる楽しさ、収穫の楽しさを肌で感じて頂いています。個々のニーズのあわせ、正面から向きあい、ご家族と共に考え、共に笑いあえるようなご家族の“心のひだまり”になれるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昨年8月に開設した事業所である。1、2階がグループホーム、3、4階に高齢者専用賃貸住宅、同敷地内に通所サービス等も展開している。建物や設備などよく考えられており、浴槽自体が左右に動くタイプを起用したり、フロアの畳スペースもあえて床と平らに設置したり、オープンキッチンに加えて事務所もオープンスタイルにし、利用者の導線に目が行き届きやすい環境を整備している。管理者やスタッフが明るく笑顔で接し、折り紙や貼り絵などの手作業や踏み台、新聞を丸めた棒を利用したリハビリを行い、機能維持にも力をいれている。訪問当日は同法人の福祉専門学校の生徒が里孫実習としてコミュニケーションを図る勉強に来ており、利用者と一緒に棒体操を行っていた。若者に囲まれ、利用者の方も明るく活き活きとしており、交流を楽しんでいる姿が印象的だった。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果(1階)

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所の目標をあげ職員一同で実践するように努めている。理念が十分理解できていないこともあるので再度確認していく。	フロアーミーテイングで確認したり、日々の支援の中で管理者がさりげなく理念を尋ねるなど日頃からの意識づけを図っている。事業所の目標を掲げ、フロアに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時あいさつ程度ではあるが、交流をしている。参加可能行事には、積極的に参加するように努めている。	近隣を散歩する時に挨拶をしたり、地元のお百姓さんに畑仕事を教えてもらうなど繋がりを大切にしている。雛渡御や地域の祭りにも積極的に参加している。今年は夏祭りを予定しており、近所にチラシを配り、地域住民や家族、他事業所の職員など参加してくれるよう働きかけている。	地元の幼稚園や小学校等と交流を図り、地域福祉の拠点として子供たちに福祉を伝えて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等での意見・ご希望は早急に日常サービスに取り入れるように努めている。	家族、民生委員、地域包括支援センター、提携病院の看護師等の参加により定期的に開催している。事業所の活動報告や地域の情報交換を行い、参加者からの意見も積極的に検討し、出来る事は反映している。今後、行政職員や他のGH職員の方にも参加の働きかけをしようと思っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	できていない。今後はもっと積極的に報告、相談をしていきたい。	同法人に地域包括支援センターがあり、運営推進会議を中心とし連携を図っている。分からない事があれば随時連絡し、相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必要以上な身体拘束は行わないようにしている。研修を通し職員間で周知徹底している。	基本的に日中玄関の施錠はしていない。しかし、離施設があり検討した結果、職員が一人になる時間帯のみ施錠をすることを決定し、家族に了承を得ている。身体拘束について社内研修を行い、職員の認識を深めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修、資料により虐待のないよう指導している。入居者様、職員のストレスにも気をつけるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識はあるが、職員への伝達・研修が不十分であり、今後は解かりやすく研修・ミーティングを行い活用できる様に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行い御家族に十分理解・納得して頂いてから契約するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設け、意見を言えるようにしている。公的機関も紹介している。また、寄せられた意見に対し、しっかりと受け止め迅速に対応している。	さりげなく苦情箱が設置されている。何か問題があればフロアーミーテイングで終わらせず、職員全体で検討し、1週間・1ヶ月の経過を家族に説明している。記録もきちんと行っており、安心できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い困っている事等話し合っている。ケア統一に反映できるように努めている。	会議記録をいつでも見ることができ、出席できなかった職員も意見や提案をすることができる。また、職員アンケートや個人面談も随時行っている。職員から提案により、『クラブほっこりーナ』が設立され、緑のカーテンなど土いじりを楽しみながら近隣の方とのコミニュケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を始め、働きやすい職場になるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。 必要に応じ繰返し研修を行い、知識技術をチーム全体に浸透できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム分科会に参加し、他事業所との情報交換を行っている。また法人内グループホームと定期的にミーティングを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を確かめているが、意思疎通困難な入居者様に対して要望を感じとるのが困難である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様に不安・要望を聞く様にしている。御家族とも細目に連絡を取りあい、その都度対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にはホーム生活に慣れてもらうように支援しながら個別ケアの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も入居者としっかりコミュニケーションを取りながらできる事は自分で行ってもらい必要以上な介護にならないように指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が参加できるような行事等企画し、声かけを行っている。日用品等、できるだけ持参して頂くようにし、面会の機会を増やすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所、友人、以前より参加していたサークル活動に参加している人もいる。今後も継続して頂けるよう声かけを行っている。	近所から入居された利用者が多く、家族の意向を確認した上で、友人の面会を受け入れている。また、家族の協力もあり、お花の習い事を続けている方もおられる。同敷地内のデイサービスの利用者の中に知人がおり、ときどき訪問しおしゃべりを楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご近所、友人、以前より参加していたサークル活動に参加している人もいる。今後も継続して頂けるよう声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も本人の様子を見に行き必要に応じ法人グループ施設への紹介等、継続した関係性を持っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意見、希望を聞きできる限りご本人の意向にそえるように支援している。	その人の生活歴や人生観、家族などバックグラウンドをできる限り把握し、思いや意向をくみ取るよう努めている。日常生活の中で本人の意志を確認しながら、本人らしく生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンド表、ご本人、ご家族より、具体的な情報を聞き今までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を詳細に記入し、個別の生活状態把握に努めている努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望を取り入れ、その人らしく生活できるようなプランを考えている。日常的に職員間で情報交換を行い、プランの見直し等に努めている。	各ユニットのリーダーと担当職員が話合い、ある程度の指針を作成し、会議にて意見交換を行っている。ケアプランにはできるだけ身近で出来る事を記入するようにしている。状況の変化や職員からの意見があったときには随時リーダーに相談し、プランの見直しなど行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノート等を活用し情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応可能範囲内にてできる限り、取り組んで行くよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、情報交換はあるものの町内会との協働は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療への受診時、職員が代行にて付き添っているが、診療科目のない受診についてはご家族に同行をして頂いている。	協力医療機関に受診支援を行っている。24時間365日体制で連携ができており、入院なども随時対応している。精神科や眼科、耳鼻科などの受診は家族の協力をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。協力病院の看護師へ相談し、受診の指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にケースワーカーや看護師と連携を図っている。入退院時にはスムーズな対応ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていない。チームカンファレンスにより医療・介護面で重度化した場合は、法人内の事業所にて対応できるように調整している。	看取りは行っていないが、重度化した場合同法人の老人福祉施設等に紹介し、法人全体で最期まで支援できる体制を整えている。また、職員は病院や施設で行われる研修に参加し、認識を深めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。定期的にロールプレイにて訓練を行い対応方法を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は入居者様も参加して行っている。避難経路・方法のマニュアル作成し、訓練している。消火器、スプリンクラーを整えている。火事を起こさないよう指導している。	年3回、同敷地内の事業所と合同で避難訓練を実施している。避難方法のマニュアルを作成し、訓練をしている。水害時には地域の避難所として指定されている。	建物が4階まであるため、緊急時の避難方法を再度検討し、一度訓練に組み入れてほしい。また、地域の避難所として指定を受けていることなど近隣住民に認識してもらえるよう働きかけてほしい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ時言葉使い、態度には十分尊敬の念を持って行う。個人的な話については自室にて話すようにしている。	声をかける時の言葉使いや態度には特に気を付けている。”慣れ”をなくすようリーダーが随時指導を行っている。また、利用者個人の話は個室で1対1で話をするよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知が進行している中で言葉に表せない面からも御本人の要望をくみ取れるよう支援している。自分でできる所は自分で選んでもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、ご本人の要望により、ゆっくり一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶ事が難しい方には一緒に選んでいる。月一度訪問美容を手配し、毛染め、パーマ等、おしゃれを楽しんでもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備はなかなか難しいが、食後の片づけ、食器洗い等、無理のない程度でお手伝いをして頂いている。	自分で完食できたという満足感を感じてもらうため、1人ひとりにあった量を盛り付けるなど配慮している。たこ焼きやホットケーキなどおやつ作りを一緒にしたり、食器洗い、机拭きなどお手伝いしてもらいながら食事を楽しむことができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、嗜好にあわせて個別対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ見守りにより自分でできる方は行ってもらう。義歯の方は洗浄後、毎晩洗浄液使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけによりトイレ誘導をしている。職員間でも声をかけあい、全員が同じ支援ができるようにしている。	今の所、常時オシメ着用の方はおらず、リハビリパンツ＋パット使用し、定時の声かけによりトイレへ誘導している。声をかける時は大きな声を出さず、本人のみに聞こえるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理録に排便の有無を記入し、個人のパターン把握に努めている。水分補給を細目に行い散歩などによる適度な運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は日中行うようにしている。曜日は一応決めているが、ご本人の希望があれば随時対応している。ゆっくり入浴したい方は順番をずらしたり、拒否される方は着替え、清拭足浴で対応している。	最新のバスユニットが設備され、安心して入浴が楽しめる。週2回を基本としているが、毎日でも希望があれば入浴している。時間帯もできるだけ本人に合わせるよう配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースにて過ごしてもらっている。昼夜逆転傾向の方には日中できるだけ活動して頂き、夜ゆっくり休める様努めている。必要に応じ、クッションやタオルを使用し安楽な姿勢にて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。薬の説明書はケースにはさみ情報共有している。服薬確認は職員２名で行い、名前等ダブルチェックを行い誤薬を防いでいる。飲み込みもしっかり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の負担にならない程度にできる事を手伝ってもらい役割を持てるよう支援している。余暇は本人希望を取り入れ、レクリエーションを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外できる限り散歩に行けるよう支援している。家族の協力を得、外出している人もいる。ホーム所有の車がない為、外出にかなり制限がある。	雨の日以外は、毎日散歩をするよう心掛けている。今は暑い時期なので、夕方など涼しい時間を中心に行っている。また、家族の協力により外食やお墓参り、外泊等している利用者もおられる。今後、季節毎の外出行事なども企画していく予定。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がほとんど居られない。数人の方は御家族と相談の上少額の金銭を所持し、本人希望時買物へ行き、自分で支払いできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話があった時には、取り次ぎ話をして頂いている。携帯電話所持している方もいるが、見守り、声かけで電話して頂くように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は暖みのあるものを使用し、冷暖房を完備し、必要に応じて使用している。共有スペースには、壁画等により季節感を出すよう工夫している。	廊下やフロアは広く、窓際には日向ぼっこができるよう畳スペースが設けられている。冬場にはホットカーペットを敷き、井戸端会議が始まるとのこと。壁面には利用者が作った折り紙や作品が飾られ、季節を感じることができる。ソファが配置され、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーで気のあった入居者様同士でテレビを見たり、畳スペースにカーペットを敷き、横になったり座ったりできる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込み、家族と一緒に配置して頂き、自宅と同じ状態にて生活している。	籐の座椅子、仏壇、ちゃぶ台など自宅から馴染みの物を持ち込んでいる。また、自分で作った折り紙や手作りカレンダーが飾られ、それぞれ生活感のある部屋作りをしている。部屋の窓からゴーヤ・キュウリなど緑のカーテンを眺めることができ、自然な涼しさを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関のスロープ化、手すりを設置している。大きくご本人の名前を書くのではなく、ご本人の好きな物で目印をつけ自室がわかるよう支援している。		